

日本人の余暇利用方法に関する一考察

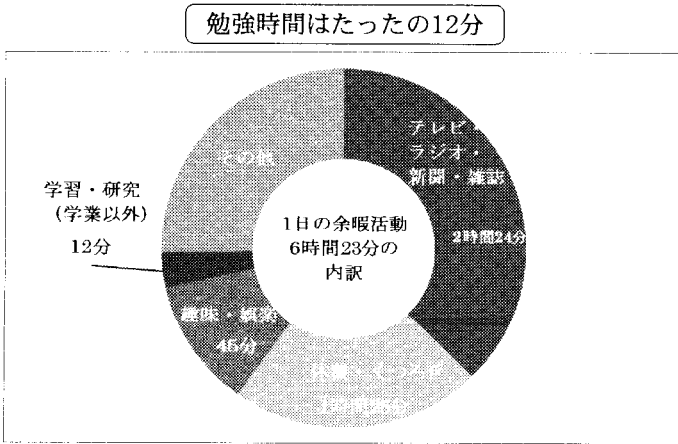
伊藤 祐一

はじめに

日本人の余暇時間の利用において学習時間が非常に短いことを週刊誌¹⁾で読みその事に驚きを感じ、内容を詳細に調べたのが本論文である。

第1章 日本人の余暇時間の利用方法

日本人の余暇時間の利用内訳を週刊誌¹⁾は図1のように掲載している。



日本の10歳以上の行動種別生活時間

図1 1日の余暇時間の内訳

それによると、1日の余暇活動6時間23分のうち、学業以外の学習・研究に費やされる時間は12分となっている。これは憂えるデータであり、あまりにも短すぎるのではないかと思い、このデータに関して詳細に調べた。

週刊誌に掲載されていた図は、平成18年に総務省統計局が発表した「社会生活基本調査」²⁾を基にしていることがわかった。この調査は、国民の生活時間の配分及び自由時間等における主な活動について調査したものである。ここで実際にインターネット上でこのデータを取得するまでの手順を以下に示す。

インターネット上で総務省統計局HPを呼び出す。次に統計データ→統計表一覧(Excel集)→社会生活基本調査→平成18年調査票A→生活時間編→全国の順にアクセスすると「曜日、男女、ふだんの就業状態、年齢、行動の種類別総平均時間、行動者平均時間及び行動者率」データにたどり着く。このうち後述する行動総平均時間の内訳の3次活動データの中から「テレビ・ラジオ・新聞・雑誌」「休養・くつろぎ」「趣味・娯楽」「学習・研究(学業以外)」のデータを抽出し、余暇時間からこれらを差し引いた時間をその他として図示したものが図1である。

図2は行動別総平均時間を全国と広島県について示したものである。ここで睡眠、仕事以外ではテレビ、食事、家事、休養、身の回り、趣味・娯楽の順に時間が使われていることがわかる。これで見ると学業以外の学習・研究時間が非常に少ないことが気にかかる。また、広島県では睡眠、仕事に費やす時間が全国平均よりも多いことがわかる。

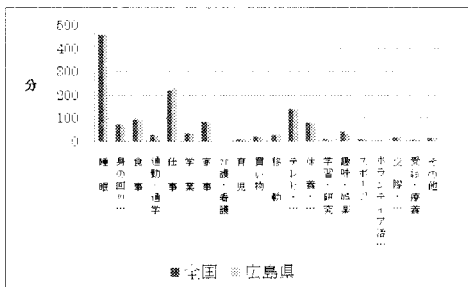


図2 行動別総平均時間

第2章 社会生活基本調査について

総務省統計局の「社会生活基本調査」データを見る上で必要な知識について説明する。

(1) 活動の3区分

① 1次活動 … 生理的に必要な活動(睡眠, 身の回りの用事, 食事)

② 2次活動 … 社会生活を営む上で義務的な性格の強い活動

(通勤・通学, 仕事, 学業, 家事, 介護・看護, 育児, 買い物)

③ 3次活動 … 上記以外で各人が自由に使える時間における活動

(移動, テレビ・ラジオ・新聞・雑誌, 休養・くつろぎ, 学習・研究, 趣味・娯楽, スポーツ, ボランティア活動・社会参加活動, 交際・付き合い, 受診・療養, その他)

(2) 行動の種類

① 睡眠 … (夜間の睡眠, 昼寝, 仮眠)

② 身の回りの用事 … (洗顔, 入浴, トイレ, 身じたく, 着替え, 化粧, 整髪, ひげそり, 美容室でのパーマ・カット)

③ 食事 … (家庭での食事・飲食, 外食店などでの食事・飲食, 学校給食, 職場での食事・飲食)

④ 通勤・通学 … (自宅と仕事場の行き帰り, 自宅と学校(各種学校・専修学校含む)との行き帰り)

⑤ 仕事 … (通常の仕事, 仕事の準備・後片付け, 残業, 自宅に持ち帰ってする仕事, アルバイト, 内職, 自営業の手伝い)

⑥ 学業 … (学校(小学・中学・高校・高専・短大・大学・大学院・予備校など)の授業や予習・復習・宿題, 構内清掃, ホームルーム)

⑦ 家事 … (炊事, 食事の後片付け, 掃除, ゴミ捨て, 洗濯, アイロンかけ, つくろいもの, ふとん干し, 衣類の整理片付け, 家族の身の回りの世話, 家計簿の記入, 庭の草取り, 銀行・市役所などの用事, 車の手入れ, 家具の修繕)

⑧ 介護・看護 … (家族・他の世帯にいる親族に対する日常生活における入浴・トイレ・移動・食事などの手助け, 看病)

⑨ 育児 … (乳児のおむつの取り替え, 乳幼児の世話, 子供のつきそい, 子供の勉強の相手, 子供の遊びの相手)

- ⑩買い物 … (食料品・日用品・電化製品・レジャー用品など各種の買い物)
- ⑪移動 (通勤・通学を除く) … (電車やバスに乗っている時間・待ち時間・乗換え時間, 自動車に乗っている時間, 歩いている時間)
- ⑫テレビ・ラジオ・新聞・雑誌 … (テレビ・ラジオの視聴, 新聞・雑誌の購読)
- ⑬休養・くつろぎ … (家族との団らん, 仕事場または学校の休憩時間, おやつ・お茶の時間, 食休み)
- ⑭学習・研究 (学業以外) … (学級・講座・教室, 社会通信教育, テレビ・ラジオによる学習・研究, クラブ活動・部活動で行うパソコン学習など, 自動車教習)
- ⑮趣味・娯楽 … (映画・美術・スポーツなどの観覧・鑑賞, 観光地の見物, ドライブ, 手芸, 華道, 園芸, ペットの世話, 麻雀, 趣味としての読書, テレビゲーム, クラブ活動・部活動で行う楽器の演奏)
- ⑯スポーツ … (各種競技会, 全身運動を伴う遊び, 家庭での美容体操, クラブ活動・部活動で行う, 野球など (学生が授業などで行うスポーツを除く))
- ⑰ボランティア活動・社会参加活動 … (道路や公園の清掃, 施設の慰問, 点訳, 手話, 災害地などへの援護物資の調達, 福祉のつどい・バザーの開催, 献血, 高齢者の日常生活の手助け, 民生委員, 婦人活動, 青少年活動, 労働運動, 政治活動, 宗教活動, 子供会の世話, 美術館ガイド, リサイクル運動, 交通安全運動)
- ⑱交際・つきあい … (会食, 知人と飲食, 冠婚葬祭, 送別会・同窓会への出席及び準備, あいさつ回り, 見舞い, 友人との電話, 手紙を書く)
- ⑲受診・療養 … (病院での受診・治療, 自宅での療養)
- ⑳その他 … (求職活動, 墓参り)

(3) 平均時間

行動の種類別総平均時間は、1人1日当たり平均時間で、総平均と行動

者平均、曜日別平均と週全体平均とがある。本研究では、曜日別平均と週全体平均を取り扱わなかった。

① 総平均時間 … 該当する種類の行動をしなかった者を含む全員
についての平均時間

② 行動者平均時間 … 該当する種類の行動をした者（以下「行動者」
という。）のみについての平均時間

(4) 行動者数、行動者率、平均行動日数

本研究では行動者数のみを考慮したので、行動者数について説明する。

行動者数 … 平成18年10月より過去1年間に、該当する種類の活動
を行った10歳以上の人数

第3章 余暇時間についての考察

3-1. 余暇時間の行動者平均時間

図1は1日の余暇の総平均時間に関して図示したものである。ここで総平均時間とは、該当する種類の行動をしなかった者を含む全員についての平均である。だから図1に示す学業以外の勉強・研究時間が12分というのは、学業以外の勉強・研究をした人としなかった人全員についてのデータであることに注意する必要がある。筆者は学業以外の勉強・研究をしなかった人を加算することに賛成しかねる。仕事をしていくうえにおいて勉強は非常に大事なことなので、学業以外の勉強・研究をした人がどれだけの時間を割いて勉強・研究をしたかを知るほうが重要と考える。これに関しては行動者平均時間として公表されている。この行動者平均時間の内訳を図3に示す。ここで、凡例に示している「全体」とは10歳以上の人々、「生産年齢」とは15歳から64歳までの人々、「老年」とは65歳以上の人々を意味する。グラフの上を示す数字は生産年齢の人が費やした時間を分単位で示したものである。ただしここでは、活動の3区分のうち3次活動から「移動」「受診・療養」「そ

の他」の項目を除いた項目を余暇利用分野とみなしている。

これによると、学業以外の学習・研究に費やされている時間は「全体」「生産年齢」共に139分（2時間19分）である。すなわち生産年齢人口のうち勉強している人は1日に平均2時間19分勉強をしていることになる。「老年」になると時間が少なくなっているようである。生産年齢で見ると、学業以外の学習・研究に費やされる総平均時間は12分であったが、行動者平均時間は約2時間であった。すなわち1日平均約2時間は勉強していることになる。

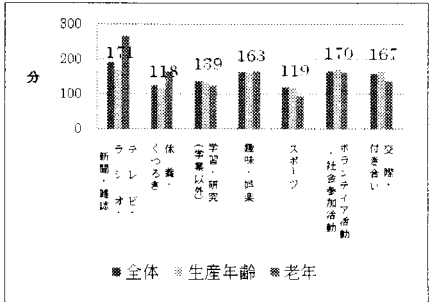


図3 余暇利用の行動者平均時間の内訳

図4に、1次、2次、3次活動時間の全体、生産年齢、老年別の内訳を示す。

余暇時間は3次活動に相当するが、生産年齢層は余暇に割ける時間が少ないようである。それだけ忙しく働いているからであろう。老年層の余暇時間は生産年齢層のそれよりも多くなっている。生産年齢層の人は2次活動すなわち通勤・通学，仕事，学業，家事，介護・看護，育児，買い物に時間を費やさざるを得ないのであろう。これらの時間を減らすことは現状では困難なようである。

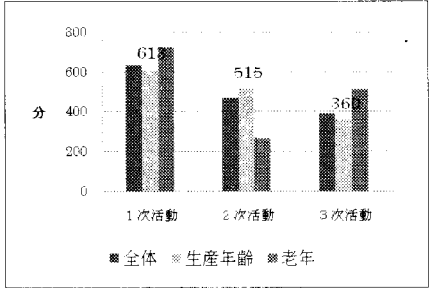


図4 余暇時間の内訳

3-2. 余暇時間の年齢層分布

次に余暇時間を10歳から59歳まで5歳ごとの年齢層で見たのが図5である。19歳までは、学業以外の学習・研究に割く時間は増加しているが、それ以

降の年齢では急激に減少している。高校卒業まではよく勉強するが、それ以後大学生になってからは学業以外の勉強をあまりしてないのではないだろうか。24歳までは、趣味・娯楽、スポーツに割く時間が増加傾向にあるが、年をとるにつれ減る傾向が見られる。一方年齢がたか

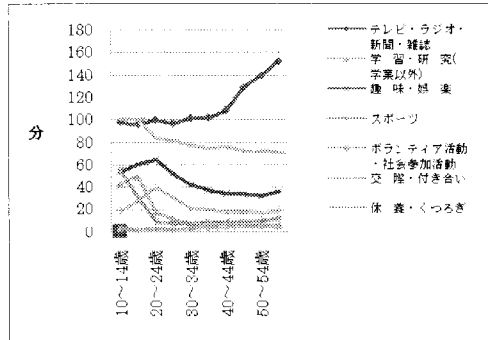


図5 年齢層別余暇利用時間の利用内訳

くなるにつれて、テレビ・ラジオ・新聞・雑誌に割く時間が増えていることがわかる。これは年をとるにつれ、時間があれば漠然とテレビ等を見ていることを表しているのかもしれない。

3-3. 余暇利用時間の内訳

図6は総務省統計局統計調査部国勢統計課「社会生活基本調査報告」³⁾

から1986年から2001年までの間に余暇をどのように利用しているかの推移を抽出し図示したものである。テレビ・ラジオ・新聞・雑誌に費やす時間、ならびに趣味・娯楽に費やす時間の増加が見られる。

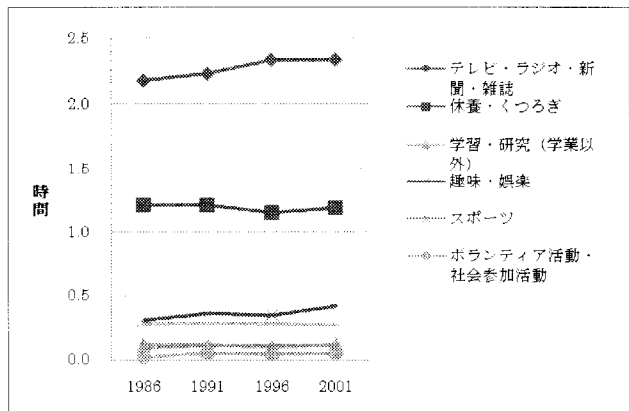


図6 余暇利用時間の内訳推移

図7はテレビ普及台数の年次推移を示す⁴⁾。2003年をピークに少し減少しているようである。今後は地上デジタル放送が開始されたので、テレビの買い替え需要はたくさんあると期待されるが普及台数自体は今の傾向が維持されるであろう。

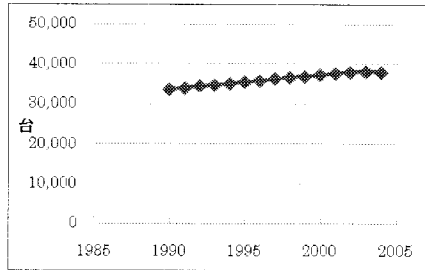


図7 テレビ普及台数の推移

図8は新聞の発行部数の1990年から2006年までの推移を示す⁵⁾。最近では発行部数が減少しているようである。この原因の一つとしてインターネットの普及が考えられる。

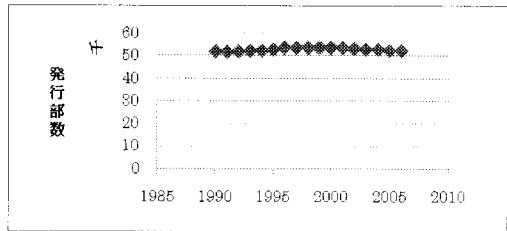


図8 新聞の発行部数

図9は雑誌発行部数の1990年から2004年の推移を示す⁶⁾。1998年以降は発行部数の増加率が小さくなっているようである。

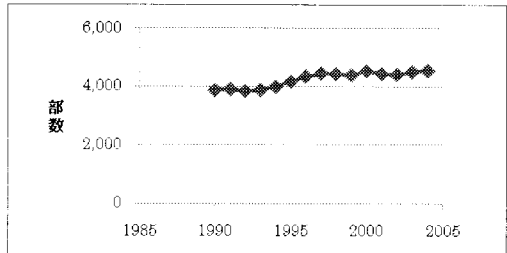


図9 雑誌発行部数の推移

テレビの普及台数、新聞の発行部数はやや減少傾向にあるが、雑誌の発行部数は横ばい傾向にある。それにもかかわらず図7で示したように、テレビ、ラジオ、新聞、雑誌の占める時間は年齢層が大きくなるにつれて大きくなって

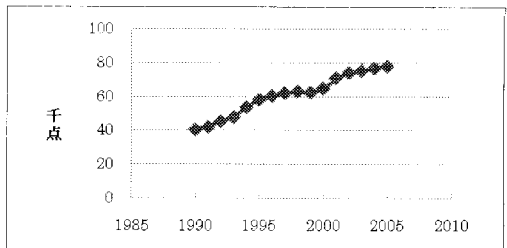


図10 書籍の売り上げ点数の推移

いる。

社会基本調査には含まれていないが、書籍の売り上げ点数⁷⁾は図10に示すように年々増加している。読書は行動の種類では「趣味・娯楽」に含まれる。図6では趣味・娯楽は年々増加しているの、読書する人は確実に増えていると言える。

3-4. 趣味・娯楽時間の内訳

図11は総務省統計局統計調査部国勢統計課労働力人口統計室「社会生活基本調査報告」⁸⁾から得たデータのうち1996年から2001年にかけて増加した分野を記している。顕著な伸びを示しているのは、商業実務・ビジネス関係、映画鑑賞である。仕事に直結する分野に時間を割いているようである。外国語が予想に反してあまり伸びていないようである。

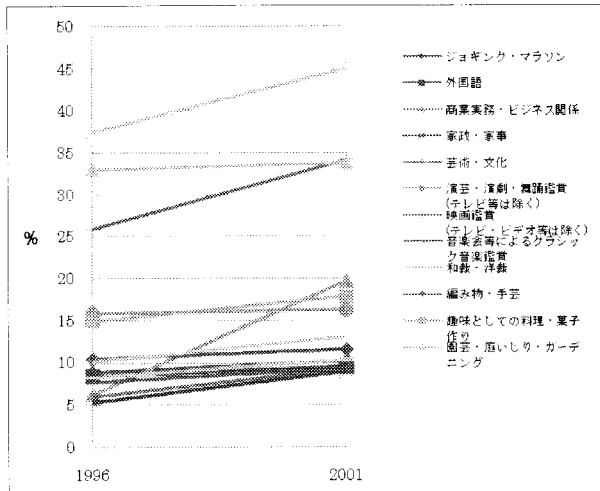


図11 趣味・娯楽時間の内訳推移

図12は映画の封切本数と映画館への入場者数の1990年から2005年までの推移⁹⁾である。封切本数、入場者数ともに少し増加し

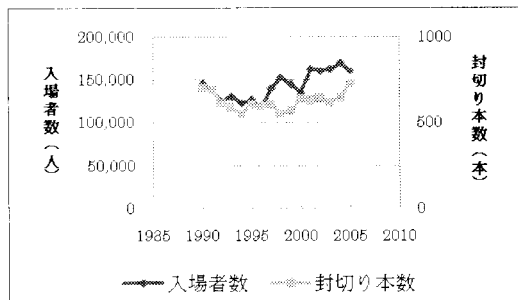


図12 映画の入場者数と封切り本数の推移

ているようである。

第4章 日米の余暇比較

「勉強時間たったの12分」というキャッチフレーズにショックを受けたが、行動者平均時間で見ると学業以外の学習・研究に費やされる時間は139分でありホッとした。それではこの勉強時間をどのように利用しているかについて米国と日本を比較していくことにする。

2002年4月に日本と米国の五十歳以上の壮年を対象とした仕事、生活、余暇、インターネットに関する調査¹⁰⁾が、インターネット上で実施された。ただし両国ともに回答者は、無作為に選ばれた人（ランダム・サンプル）ではなく、おもにIT・コンピュータに関心があるシニアである。

主な調査項目に対する日米の比較について記述する。

(1) 調査項目1：新しいことを学んでいる。または趣味に打ち込んでいる。

図13に「新しいことを学んでいる。または趣味に打ち込んでいる。」に対する回答を示す。これによると、米国人の方が日本人の倍新しいことを学んでいるあるいは趣味に打ち込んでいることがわかる。その通りとまあそうだと思うの合計は米国91%、日本74%である。ここに両国の差が大きく表れているようである。学業以外の学習・研究には講座、教室、社会通信教育等が含まれているが、これらは新しいことの勉強よりも、現在の仕事を補強する意味での勉強なのであると考えられる。

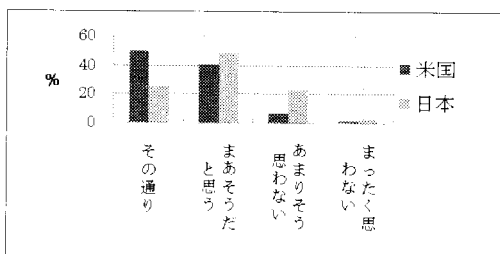


図13 新しいことを学んでいる。または趣味に打ち込んでいる

(2) 調査項目2：生涯学習や趣味に関心を持った時期

図14に生涯学習や趣味に関心を持った時期を示す。米国では関心がない人は52%、日本では10%である。米国では年齢が進むにつれて関心を持たなくなっているが、日本では四十代以降に関心を持つ人が32%ある。日本人は米国とは異なり年をとるにつれ勉強したくなるようである。

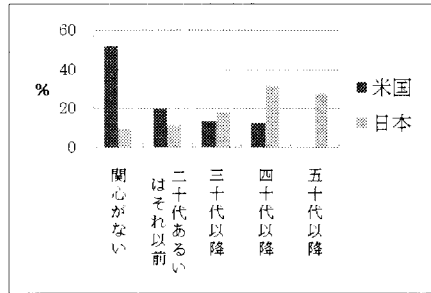


図14 生涯学習や趣味に関心を持った時期

(3) 調査項目3：生涯学習と趣味に関して現在やっていること

図15に生涯学習と趣味に関して現在やっていることを示す。「余暇に楽しめる趣味がある」「旅行で行きたい場所の情報を探す」「余暇に勉強したいテーマや分野がある」は米国の方が日本より多い。余暇に勉強したいテーマや分野があるに関しては、米国61%、日本44%である。

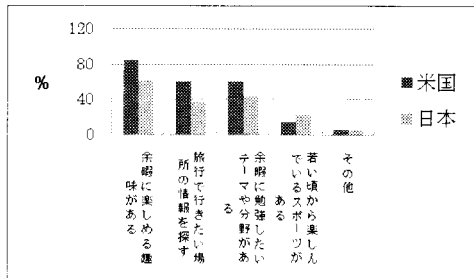


図15 生涯学習と趣味に関心して現在やっていること

(4) 調査項目4：仕事に関して現時点で行っていること

図16に仕事に関して現時点で行っている項目を挙げる。日本は壮年期以降も働くため

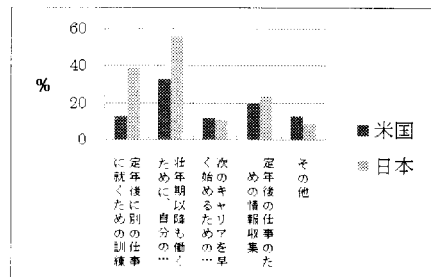


図16 仕事に関して現時点で行っていること

に、自分の知識や技術を見直す人の割合が多い。また定年後に別の仕事に就くための訓練をする人の割合が次いで多い。日本では現状の仕事や将来の仕事に関しての勉強にさく割合が多い。新しいことを学んでいるかという調査項目1では日本は米国の半分以下の割合であったことから、定年後に別の仕事に就く場合も、まったく異なった業種ではなく似通った業種へ変わるための勉強をしているようである。

(5) 調査項目：最も役立つ情報源

図17に最も役立つ情報源を示す。マスメディアが日本は米国よりもはるかに多い。次いでインターネット

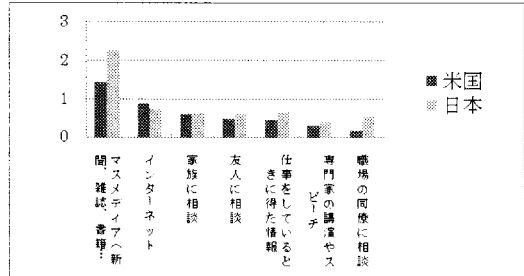


図17 最も役立つ情報源

(6) 調査項目：ボランティア活動を通じて社会に貢献している

図18にボランティア活動を通じて社会に貢献している割合を示す。

米国ではボランティア活動を通じて社会に貢献していると思っている人は30%強であるが、日本では10%弱である。米国ではボランティア活動をする人が3倍強いることがわか

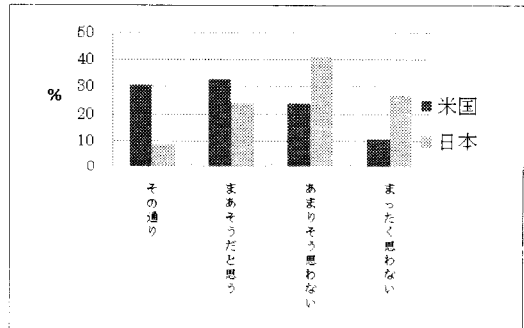


図18 ボランティア活動を通じて社会に貢献している

る。あまりそう思わないひとは日本で41%、米国24%と逆転している。

(7) 調査項目：ボランティア活動などの社会貢献の時期

図19にボランティア活動などの社会貢献の時期を示す。ボランティア活動に関心がない層は米国、日本ともに30%近くいる。日本では五十代以降にボランティア活動を始めた人が33%社会貢献をする人の割合が増えている。

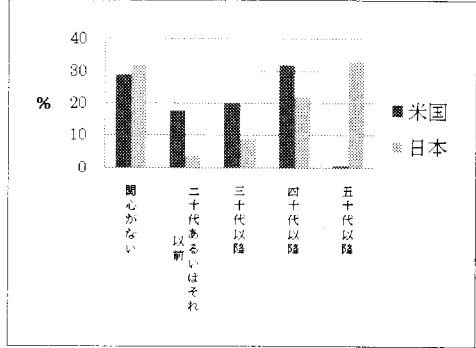


図19 ボランティア活動などの社会貢献の時期

米国では五十代までにボランティア活動を終えあとは悠々自適な生活を楽しんでいるようである。

(8) 調査項目：地域貢献活動

図20に地域貢献活動を示す。ボランティア活動に参加する割合は日本は米国の約3分の1である。ボランティアについての情報収集はよくやっているようである。

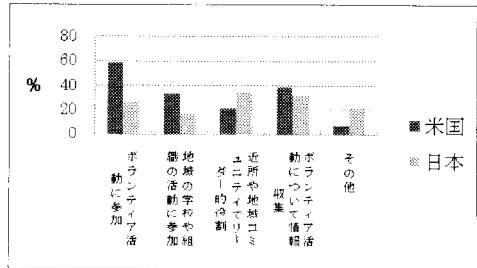


図20 地域貢献活動

第5章 インターネットとその将来

調査項目5で、最も役立った情報のうちマスメディアに次いでインターネットであったのでインターネットについて詳細に調べた。

グローバルマーケットリサーチ&コンサルティング会社日本人テイラー

ネルソンソフレス・インフォプラン（TNS）が行ったインターネットとその将来の見通しについての調査「Digital World, Digital Life」によると、調査対象16カ国の人々の25歳以下の若者は平均して余暇時間の3分の1近く（30％）をインターネットで過ごしている。インターネットの使用目的は図

21に示すように、情報を見つけるために検索エンジンを利用81％、ニュースを読む76％、オンライン・バンキング74％、天気を調べる65％、製品やサービスを購入前に調査する63％となっている。

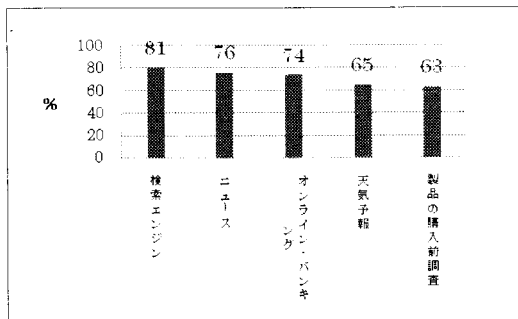


図21 インターネットの使用目的

TNSのマネージング・

ディレクターを務めるアーノ・ハマーストン氏は「余暇時間がとても貴重であるとすればなぜ人々は平均3分の1近くをインターネットの利用に費やしているのか。私たちの考えでは、特にインターネットを利用して貴重な時間を効率的に使い、よりよく生活に適合できるようにしようとしているからだと思う。オンラインを利用すれば、特定の仕事や活動を迅速かつ効率的に行うのに役立つ。オンラインで生産的に時間を使うことによって、実は余暇時間を増やしているわけだ。オンラインで利用できる社会活動や娯楽活動が増えている状況を見ても、生活のデジタル化が進んでいる理由がよく分かる」と述べている。オンラインを利用することによって、余暇時間を効率的に利用するようになっていると思われる。

図22に総務省のインターネットの利用目的別行動者率¹¹⁾を示す。図21と

の直接比較はできないが、情報検索及びニュース等の情報入手は学習・研究、趣味・娯楽分野で多いことがわかる。学習・研究分野では情報検索及びニュース等の情報入手の為がトップであるが、その次に電子メールがきている。学

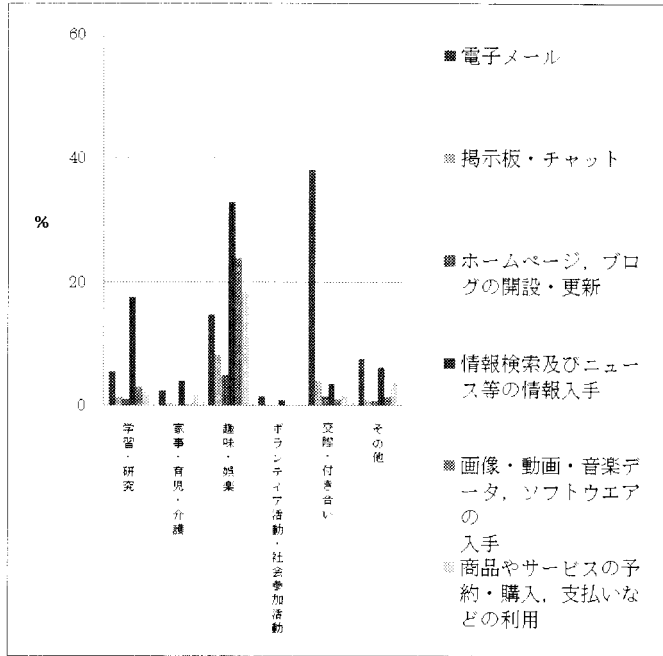


図22 インターネットの利用目的別行動者率

習・研究の面ではすでに電子メールは欠かせない存在であるといえるようである。また電子メールは交際・付き合いで40%近くの人が利用している。

第6章 まとめ

(1) 「勉強時間はたったの12分」というショッキングなキャッチコピーが週刊誌に掲載されていたが、勉強をしている人は、1日約2時間強勉強していることがわかった。

(2) 日米の余暇の利用方法を比較した結果次のことがわかった。

日本：① テレビ、ラジオ、雑誌、新聞に費やす時間が非常に多い。

とくに高齢になるにつれて多くなっている。

- ② 実務に役立つ勉強はよくしている。
- ③ 新しいことを学ぼうとはしない。
- ④ 生涯学習に目覚めるのは40代以降である。
- ⑤ 勉強したいテーマや分野がない。
- ⑥ 働くために勉強している。

日本人は仕事のための勉強すなわち実務に役立つ勉強はよくやっているようであるが、仕事に直接関係ない勉強や新しい勉強をしない傾向にあるように思われる。これでは世界から遅れることになる。

金子 勝¹²⁾ は次のように述べている。『日本の技術力は衰えているので、どうやったら絶えず新しい技術や製品を生み出せるような体制を作ることができるのかということが課題である。これからは道路や建物へのインフラ投資よりも教育への投資が重要になると考える。成熟した経済のもとでは、新しいソフトやコンテンツが入った、付加価値が高いものを絶えず生産し続けていけない限り、その国の富は蓄積されないし成長も持続できない。これまでは、読み書きそろばんを教えることによって、大量生産体制に適合した労働者を大量に作り出す教育システムが実施されてきた。実際に日本の教育現場では、1クラスに一人の先生がいて、40～50人の生徒が同じ方向を向いて、先生が言ったことをノートに取っているような教育がおこなわれている。大量生産時代の規律正しいワーカーを作るシステムのままである。ところが、多くの先進諸国では、ディスカッションをしたり、答えのない問題に挑んだりということをさせたりして「考えさせる教育」が行われている。日本において自由で創造的な発想を生む教育システムを作るには、国全体が多額の教育コストを負うことになる。とりわけITやバイオ、新しい環境エネルギーや技術革新を基本にする経済を作ろうとしたら、そういう教育が必要になる。』

- 米国：① 新しいことを学習する。
② ボランティア活動に積極的に参加している。
③ 余暇に楽しめる趣味を持っている。
④ 生涯学習や趣味には40歳代前に関心がある。
⑤ 新しいことを学び趣味に打ち込んでいる人が多い。

(3) 日本の社会では、創造性がなかなか生かされないが、その原因は日本の教育制度にあると考える。戦後日本の教育制度の特質は、米国を追い越せ追い抜けるをモットーにした知識の画一化であった。これにより急速な技術移転が可能であったが、創造性を生かす教育は全くと言っていいほど実施されなかった。それで、日本の教育方針を米国のように新しいことが自由にできるように変革することが最重要課題と考える。特に大学では学問を教える中で、未知の領域があること、さらに法則等には誤りが見つかり変更されることがありうることを教え、自分の頭で考えることの重要性を知らしめることが必要と考える。さらに一般社会人も新しいことを学べる環境作りが必要と考える。

参考文献

1. 週刊ダイヤモンド特大号 2008/11/29 ダイヤモンド社発行
2. 総務省統計局社会生活基本調査「曜日、男女、ふだんの就業状態、年齢、行動の種類別総平均時間、行動者平均時間及び行動者率」
<http://www.e-stat.go.jp/SG1/estat/List.do?bid=000001008020&cycode=0>
3. 総務省統計局社会生活基本調査「男女及び行動の種類別総平均時間（週全体）」
<http://www.stat.go.jp/data/chouki/zuhyou/26-27.xls>
4. 総務省統計局社会生活基本調査「ラジオ・テレビジョン放送局及びテレビジョン放送受信契約数」
<http://www.stat.go.jp/data/chouki/zuhyou/26-07.xls>

日本人の余暇利用方法に関する一考察

5. 総務省統計局社会生活基本調査「新聞発行部数」
<http://www.stat.go.jp/data/chouki/zuhyou/26-03.xls>
6. 総務省統計局社会生活基本調査「雑誌の出版点数」
<http://www.stat.go.jp/data/chouki/zuhyou/26-02-b.xls>
7. 総務省統計局社会生活基本調査「書籍の出版点数」
<http://www.stat.go.jp/data/chouki/zuhyou/26-02-a.xls>
8. 総務省統計局社会生活基本調査「余暇活動の種類及び男女別行動者率」
<http://www.stat.go.jp/data/chouki/zuhyou/26-25.xls>
9. 総務省統計局社会生活基本調査「映画」
<http://www.stat.go.jp/data/chouki/zuhyou/26-04.xls>
10. <http://www.happy-elder.com/200609Seniomet.pdf>
11. 総務省統計局社会生活基本調査「男女、インターネットの利用の種類、頻度・利用の機器・利用の目的別行動者数、平均行動日数及び行動者率」
www.e-stat.go.jp/SG1/estat/List.do?bid=000001008006&cycode=0-27k
12. 閉塞経済—金融資本主義のゆくえ、金子 勝、筑摩書房、ちくま新書72